

# 危機!!迫る!

## とうとう改憲発議への道が開かれた!!

### 憲法審査会がスタート

憲法改正国民投票法にもとづいて、衆参両院で憲法審査会が憲法改正案をつくることになっていましたが、これまでスタート出来ずにいました。ところが、10月21日共産党や社民党の反対を押切ってとうとう動き始めました。

憲法審査会の委員は衆議院 50 名、参議院 45 名です。九条改憲に反対の政党は、共産党と社民党の委員それぞれ 1 名だけで、あとの衆院 48 名、参院 43 名の委員はすべて改憲派の党の委員で占められています(個人的には異論のある議員もいるかもしれませんが)。これで、戦争のできる憲法案をつくらせて国民投票に持ち込む道が開かれたこととなります。憲法九条はいよいよ危なくなってきました。九条の会が本腰を入れて対処しなければならない時がやってきました。

共産党の委員は衆院は笠井亮、参院は井上哲士、社民党の衆院は照屋寛徳、参院は福島みずほの各氏です。

## 改憲派の「最初」のねらいは 96 条改正か!?

改憲派がねらうのはもちろん憲法九条の改正ですが、その改正をやりやすくするために、改憲のハードルをまず低くしようという動きがあります。憲法改正を国会が発議(国民に提案)するには、衆参両院で3分の2以上の賛成が必要です。これはなかなか難しいので、過半数の賛成で発議ができるようにしようというのです。そのためには憲法の 96 条を変えなければなりません。それをねらって去る6月7日には、衆参両院議員 200 名以上が「憲法96条改正を目指す議員連盟」を立ち上げて活動を始めています。

しかし、この「二段階改憲論」は危険なごまかしです。一度でも憲法に手をつけたら、様々なメディアを動員して、一気に「全面改憲」に持ち込むでしょう。今後「改憲」を巡る、さまざまなまやかしの動きやキャンペーンが出てくるでしょう。一つひとつ目を凝らして見張って行きましょう。

# 第6回 2011年 愛と自由そして平和 おがわ町民コンサート



チェロ独奏  
大塚幸穂  
伴奏川村紀子



バイオリンとホルンのデュオ  
会田桂子・省三夫妻



ソプラノ独唱  
大塚秀子  
伴奏大導師俊平



津軽三味線と民謡  
島田重雄 他

## 12月10日(土) 2時開演 パトリアおがわホール

「おがわ町民コンサート」お問い合わせは事務局 ☎ 0493-74-2027まで

### 九条の会よびかけ人小田実さんの遺言

国民の税金を使って憲法を変えるキャンペーンをするのは憲法違反じゃないでしょうか。そんなことはかつて歴史で聞いたことがない。そのことをね、新聞、雑誌、テレビも論じない。私はそのことはけしからんと思う。いちばん似ているのは、ワイマール共和国のワイマール憲法をつぶしてナチドイツが出てきたでしょう。あれはそっくりじゃないかと思うんですよ。いちばんいい例は、国民投票法案というのは最低投票率を決めてないでしょう。20%の投票率で憲法の改悪ができますね。それを平気でやるでしょ。それについて国民の関心は低いですね。そうするとね、少数者でもって(改憲が)できると。これなんかムチャクチャだと思いますよ。少数独裁法ですね。少数独裁の形でやろうとしてるでしょ。私はね、これは大事な問題が出てくると思うんですよ。現代民主主義のね。私はこれを問題にしないかぎり、改憲は着々進行するんじゃないでしょうか、私はそれを憂えているんです。(2007年 死の3か月前の発言)



新春のつどい

# 金子みすず 物語り

「こだまでしょうか、いいえ、だれでも」

震災の直後、連日のCMで流れた金子みすずの詩は、心に

響き、話題になりました。

没後80年、26才の若さでこの世を去った童謡詩人

・金子みすずの生涯を、今回谷英美さんの詩と

朗読でたどります。

2011年1月21日(土)

午後2時～

小川町図書館視聴覚室

(入場無料)

◆主催:おがわ町九条の会

◆問い合わせ事務局

☎0493(72)5891(藤村)



谷 英美さんのプロフィール  
東京都出身。女優。17歳で映画デビュー。21歳「オズの魔法使い」ドロシー役で初舞台全国公演。川越市在住。1999年、金子みすずひとり芝居「空のかあさま」初演。以来金子みすずがライフワーク。2007年、「アローン・シスター」発足。2010年、みすずの故郷山口県長門市より「長門ふるさと大使」拜命。全国で講演、朗読で活躍。

## 野田さん 「失望の種」はまかないで！

10月28日、野田首相が所信表明演説をおこないました。そのなかで野田さんは「希望の種をまきましょう」と訴えました。これには大賛成です。でも・・・野田さん、あなたは「希望の種」をまいてますか？

ひとつだけ取りあげましょう。「普天間飛行場の移設問題については、日米合意を踏まえつつ、・・・沖縄の皆様の声に真摯に耳を傾け、誠実に説明し理解を求めながら、普天間飛行場の移設実現に向けて全力で取り組みます」と述べました。「日米合意を踏まえつつ」というのは、名護市辺野古に新たな基地をつくるということです。それを「いやだ」とこぞって反対しているのが沖縄県民です。その県民に基地を押しつけるために、全力でがんばると言ってるのです。

民主党がかつて言っていた「最低でも県外移設」は、いったいどこに行ってしまったのですか。これは沖縄県民に「希望」ではなく、「失望」あるいは「絶望」の種を贈る背信の言葉です。

「沖縄の皆様の声に真摯に耳を傾け」るなら、普天間基地撤去以外の選択肢はないはずです。

言葉には真実がなければなりません。いつわりを美辞麗句で表現するのは、最も忌むべきことです。野田さん考え直してください。



電力会社は「くまのまど」のつた

10月29日、鎌仲ひとみ監督の映画「みつばちの羽音と地球の回転」を観、監督のお話も聞いた。上関原発に反対する祝島の島民らを描いた映画である。そのなかで、原発の着工を阻もうと漁船をつないで立ちふさがる人びとに、大きな船に乗った中国電力(中電)の社員と島民たちとのほげしいやりとりが映っていた。

中電「このまま本当に農業とか第一次産業だけで、この島がよくなると本当にお考えですか。人口は年々減って行って、お年寄りばかりの町になっていってことは、皆さん自身が一番よくわかりではないかと思えます」

島民「どんだけ年寄りが増えようが、どんだけ厳しかろうが、祝島の人間は自分たちの力でがんばっちゃうんじゃないか。お前らにいらん世話をやかれんでもええ」

中電「みなさんが心配しておられるような、海が壊れるような」とは絶対にありません。絶対と言っていいほど壊れません」

島民「中電が絶対と言って絶対のためしがないじゃないか。環境影響調査でも、スナメリを見逃してたのはどこのどいつだ。カンムリウミスズメを見つけられなかったのはどこのどいつだ。台風が来たときにボートリング台船を流されて、大惨事になりかけた事故を起こしたのはどこのどいつだ。軽々しく絶対なんて言葉を使うから嘘つきと言われるのがわからないのか。祝島が中国電力の言葉をなんで信用しないのかわからないのか」

島民「人をバカにするのもええ加減にせい」

中電「皆さんの気持ちわかりますけども、このまま、上関町がこのままだと衰退していくばかりだと・・・」

島民「あなた方が帰ればまた元に戻る。とっとと帰れ。中電は帰れ！」 (R)